

with

ウィズセンター情報誌

2011 summer
Vol.57

特集

みんなで子育て
ときにはママモリ/フレッシュ!



みんなで子育て ときにはママモリフレッシュ!



ワーキングマザー、専業主婦に関わらず、子育てに孤軍奮闘しているお母さん。男女共同参画社会が進むにつれて徐々に意識も変化してきましたが、まだまだ「子どもは母親が育てるもの」という固定的役割分担意識は根強く残っています。

育児に疲れたお母さんも、たまにはリフレッシュしては？そして、「子育て」は、やっぱりみんなですべきもの！子育て中のママたちを力いっぱい応援することで社会を変革していきたい。そんな理念を掲げて活動しているNPO法人「0-99おかやまおしえてネット（岡山市北区今）」を訪ねてみました。

この機会に「子育て」についてみんなで考えてみませんか。

親子で読書感想文を書く

やや蒸し暑い夏の昼下がりに、お気に入りの本を抱えて子どもたちが集まってきます。今日は夏休みのイベントとして「親子で読書感想文を書く」講座が開かれているのです。もちろん、お母さんやお父さんも一緒です。「本のあらすじを書こうと思わないで、自分が感じたことを書いてね」。司書の先生の指導で3時間という長丁場の講座が始まりました。心に残ったページに符箋（ふせん）を付けながら、親子の会話ははずみます。

小学1年生の男の子と参加していたお父さんに感想を伺いました。「いつも読んでいる絵本も、子どもと一緒に読むと新しい発見がありますね」。ご自分のことを「イクメン」だと思いますか？と問いかけると、「ことさらに『イクメン』という言葉で盛り上げようとするのはあまり好きではありません。自分なりのスタイルで子育てに関わっていただけらと思っていました」と答えてくれました。

手探りの子育てに光がみえた！

娘さんが小さい時「くんぺる」を利用し、今はボランティアスタッフとして活動に参加している田月裕子さんにお話を伺うことができました。



田月裕子さん

「初めての子育ての時、子どもにとっての良い環境を求めて積極的に公園、イベントなどに足を運びました。子育てに対する不安があったのだと思います。父親は仕事が忙しく、母子だけである時間が多かったので、感情のままに叱ったりする

こともありましたが、子育ての悩みを共有したり、親子で安心して居ることができる場所を見つけ、いつでも子育てを応援してくれる人がいるというのは、とても心強かったです。一人じゃないと思うと、家に帰った時の気持ちが全然違います。家庭での保育も柔軟にできると思います。子どものことももちろんですが、自分が安心できる場所を探していたのでしょね」

現在、高校3年生の娘さんは、保育士になるという夢を持っているそうです。「幼児期に良い環境で育ち、素敵な大人に出会えた経験が、夢につながったのでしょね」と田月さん。

子どもには夢や希望を持ってほしい

1996年、自宅の庭先に絵本とヨーロッパの木のおもちゃの専門店「くんぺる」をオープンし、子育ての拠点として、ママたちを応援してきた洲脇美智子さん。

今はNPO法人「0-99おかやまおしえてネット」の代表理事として、14名のスタッフと共に、子育てに関わるさまざまな活動を展開しています。そのアイデアと行動力は驚くばかりですが、その根底には「子育て中のお母さんを応援することが、良い社会の構築につながる」という確固とした信念があります。

「子どもには夢や希望を持ってほしい。お母さんが子育てを一人で背負って頑張りすぎると、そのストレスは子どもに向かいます。たまにはお母さんもリフレッシュして、ゆとりを持って子どもと接することができる環境づくりを、社会は整えていく必要があると考えます。子どもたちが夢や希望を持つために



洲脇美智子さん



「くんべる」に併設された託児・イベントスペースの「ふぁみりえん」



読書感想文は難しい？

は、家庭がなんとなくいい場所で、大人をある程度信頼できることが大切です。だからこそ、健全な家庭生活を営むための親のサポートを活動の中心に置いています」

NPO法人となり、活動の幅が広がったという洲脇さん。一時預かりやさまざまなイベントを開催し、全面的にお母さんたちを応援しています。子育てサポートに徹するとの揺るぎない信念のもと、これからも子育て中のお母さんの強い味方でいてください。

岡山市南方地域子育て支援センターにて

8月10日の午前中、プレイルームではリズム遊びが行われていました。先生の指導で0～2歳児の子どもたちとお母さんがリズムに合わせて楽しく体を動かしています。参加していた子育て真っ最中の10人のお母さんたちの声を聞かせていただきました。

「子育てが辛いと思ったことはありますか？」という質問には10人ともが「ある」という答えでした。「それはどんな時ですか？」の問いには「せっかく作った離乳食を食べてくれない時」「なかなか寝ついてくれない時」などなど。

「子育てを一番手伝ってもらいたい人は誰ですか？」と問いかけるとみなさん声を揃えて「夫です!」「夫が何もしてくれない時はいらっとする」という声も・・・。

「子育て中のお母さんにとって必要な時間はどんな時だと思えますか？」と問いかけると、すかさず「一人の時間」という声が上がりました。

●センター長さんにもお話を伺いました。

「みなさん、子どもと向き合っている時間が長く、本当に疲れていると思います。子育て中のお母さんにとってほっとする時間はとても大切です」



親子でリズム遊び

忙しいお母さん必読!

こころがホットとする絵本

●「すぎすき ちゅー!」

イアン・ホワイブラウ 文
ロージー・リーヴ 絵



ネズミの親子のとってもとってもかわいいお話。思わず大好きな人をぎゅーっとしたくなります。

●「ライオンのよいいちにち」

あべ弘士 文・絵

子どもと散歩に出かけたライオンのお父さん。途中、いろいろな動物に会いますが・・・。

●「はやくはやくっていわないで」

益田ミリ 文 平澤一平 絵

誰でも、その人の都合があり、順番もある・・・そんな当たり前のことをしみじみと感じさせてくれます。

●「おんぶはこりごり」

アンソニー・ブラウン 文・絵

毎日、家族のお世話が忙しいお母さん。ある日、お母さんがいなくなった! その時家族は・・・。

ウイズセンター情報コーナーで貸出をしていますので、ご利用ください。

取材を終えて

子育て期の母親は子どもに向きあう時間が長く、周りが思っている以上に心身ともに疲れているんだな、と感じました。たまには誰かを世話することから解放されて、自分のための時間を確保し、リフレッシュすることはとても大切なことです。家族の協力はもとより、社会がもっと子育てに関わっていくことも必要だと思いました。

(取材：情報コーナー 小林)

ウィズセンターで開催した講座を紹介します。

ウィズカレッジ 男女で学ぶ介護講座

2011年4月23日(土)

孤立しがちな男性介護者の支援に取り組まれている津止さん。「『ケアメン（介護できる男性）』コミュニティを広げよう」とのメッセージに、会場の7割を占めた男性参加者も真剣に聞き入りました。



講演 「オトコの介護を考える
～老後を自立して迎えるために～」

講師 津止 正敏さん
(立命館大学産業社会学部 教授)

現在、男性介護者の支援者全国ネットワークを運営しています。男性の介護体験記をまとめたところ、大きな反響があり、男性介護者の問題に多くの人に関心を寄せていると実感しているところです。

男女共同参画ゼミナール 公開講座(第1回)

2011年6月30日(木)

倉敷市出身で、ママたちの夢をかなえる授乳服の製造・販売を行う「モーハウス」を起業した光畑さん。参加者にマイクを向けての絶妙なやりとりに、笑顔があふれた講座でした。



講演 「あなたらしい働き方を
探してみませんか？」

講師 光畑 由佳さん
(有)モーハウス 代表取締役)

1997年夏、長女と次女を連れての初めての外出、電車の中で泣き止まない子ども、戸惑い、周囲の視線を感じながらの授乳体験。授乳という自然な行為が母親たちの行動を拘束しているという違和感が、モーハウス誕生のきっかけでした。

男女共同参画ゼミナール 公開講座(第3回)

2011年7月22日(金)

「スウェーデンでできたことは、岡山にだってできます！」という力強いエール。北欧の政治・社会問題研究の第一人者である岡澤さんのエネルギッシュなお話、会場は終始熱気に包まれました。



講演 「少子高齢化と男女共同参画
～地球はどうなる・家庭はどうなる～」

講師 岡澤 憲芙さん
(早稲田大学社会科学総合学術院 教授)

これからのリーダーは、近未来のビジョンが描けなければなりません。世界の中で日本は、岡山県は、岡山市はどの位置にあるのか、地球規模で考え、行動する必要があります。

情報・IT革命、移動手段・交通運輸機関の発展、生産技術の革命的発展、医療・生命工学の発展により、私たちの知的空間

介護者の3人に1人は男性です

「広辞苑」という辞書に介護という項目が入ったのは、1991年、わずか20年前のことです。私たちの社会は、長い間、介護とか育児とか、家族の世話をすることはすべて家族に依存してきました。

若くて体力があり、家事も介護もでき、介護に専念できる時間もある介護者、つまり嫁という存在をモデルに考えられてきた介護ですが、近年、単身世帯や夫婦のみ世帯が急増し、家族のカタチの変化が、介護のカタチにも大きな影響を及ぼしています。

また、介護環境を整備すればするほど在宅介護期間が長期化するという現実があり、結果として、在宅介護の長期化、重度化、高齢化を招き、家族の中でのさまざまな葛藤要因が拡大しています。

否応なしに誰もが介護を担わざるを得ない介護環境になり、今や、介護者の3割を男性が占めることになりました。

男性は、介護に対しての備えがないまま始めるケースが多く、介護だけでなく家事経験もないことで非常に苦労します。また、仕事と介護の両立に悩み、経済的問題を抱える人も多く、介護心中、介護殺人という問題も抱えています。

その一方、介護の負担を感じている人の方が、介護の中で感じる喜びのウエイトが高い、負担と喜びとは切り離しがたく存在してゆくというデータ結果もあります。

男性介護者の調査から明らかになったのは、介護者である家族もサポートされるべきという点です。本人支援だけでなく、家族も支援の対象にする枠組み、介護と仕事と暮らしが折り合えるような社会の仕組みを考える必要があります。

ワーク・ライフ・ミックスで軽やかに

授乳服を作り始めましたが、授乳は限られた期間なのに贅沢、母親は我慢するのが当たり前、子連れで公共の場に出てはいけないという母親の意識から、まったく売れませんでした。

ライフスタイルを変えたいという思いで、授乳ショーなどお母さんたちの心のバリアを解くための活動を続け、「女性たちが心地よい自由な生活を赤ちゃんと一緒に楽しんでほしい」という授乳服を通して発信してきたメッセージも浸透してきました。母となった女性が生き生きと暮らせる社会をめざして、これからも授乳服を作っていきたいと思います。

モーハウスのもう一つの特徴が「子連れ出勤」です。

超高齢社会を迎え、社会を支える人が不足する時代、出産育児で退職するのは、働く人にとっても社会にとってもロスです。しかし、働く女性で出産前や育休前に退職する人は2人に1人、育児休業を取ったのに退職する人は、5人に1人というのが現

実です。また、離職期間が長ければ長いほど、仕事への自信がなくなり、復職が不安になる人が多いという調査結果もあります。

モーハウスでは、短時間勤務、在宅ワーク、子連れ出勤の3つのワークスタイルを駆使して子育て支援をしています。子どもを抱いたままショップで接客するなど、今までに200名以上のスタッフが子連れ勤務を経験しました。

子どもがいるから色々なことをあきらめるのではなく、働き方の選択肢が0か100ではなく、いろいろ選択できる、ワーク・ライフ・バランスだけでなく「ワーク・ライフ・ミックス」を目指しています。

また、東日本大震災後は、非常時にこそ母乳育児の継続は大切との思いで、被災地のママに授乳服を送る活動に取り組んでいます。

常識と非常識は反転する!?

は広がり、労働時間は短縮され、平均寿命は延び、結果として少子高齢化の時代を迎えました。

この変化と変動の時代を生き抜くために考えるべきことは、次の3点です。

第1点は、常識と非常識は、「時代」と共に反転する可能性があるということです。変化の規模に社会制度が対応できていないのです。社会福祉制度の充実の遅れが非婚率の上昇を招いたのも一例です。

第2点は、常識と非常識は、「空間」と共に反転する可能性があるということです。日本の常識が世界の非常識かもしれません。

第3点は、意思決定過程は、価値複合的にする方がよいということです。日本では、「男性・中年・日本人」が意思決定過程の中心を占めていますが、意思決定の場にもっと若者や女性が入ることが望ましいでしょう。

スウェーデンは、ヨーロッパで一番貧しい農業国家から、世界で最も豊かな福祉・工業国家になりました。1901年にはノーベル賞を設立し、世界中から最新情報が集まる国にしました。H&MやIKEAは、人口の小さな街で生まれました。ソフト・アイデアがあれば、世界をマーケットにできるのです。

少子高齢化対策は、女性の社会参加の促進、定年と年金受給年齢の延伸、外国人労働者の受け入れなど、あれもこれもやりながら時代と環境変化に合わせて力点を変えていくことが必要です。

これからは、国際化が問われていく時代です。日本では政治家が信頼されていないので、スウェーデンのように高負担と福祉サービスを一体的に考えることは受け入れられないでしょうが、本当に世界ではどうなのか?と、自らの常識を疑ってみることも必要です。

Topics 祝受賞! 平成23年度女性のチャレンジ賞特別部門賞

特定非営利活動法人吉備野工房ちみち

特定非営利活動法人吉備野工房ちみち（理事長：加藤せい子、所在地：総社市三須）が、女性のチャレンジ賞特別部門賞（テーマ：「地域を変える女性の力」）を受賞され、6月27日に総理大臣官邸で行われた表彰式に出席されました。

女性のチャレンジ賞とは、起業や地域活動等にチャレンジすることで輝いている女性個人・団体、また、その取組を支援する団体等を、内閣府特命担当大臣（男女共同参画）が毎年顕彰するものです。

多くの遺跡が残る歴史文化の豊かな総社市で、地域の歴史文化・魅力を再発見・PRする事業を、女性の視点を生かしながら実施してこられた「吉備野工房ちみち」の功績が、今回の受賞につながりました。

なお、内閣府男女共同参画局の「地域の活力と魅力を生みだす男女共同参画 活動事例集」に活動内容が掲載されています。



平成23年6月29日に石井知事を表敬訪問されました。

団体運営マスター講座 平成23年5月～6月

サークル・団体を始めたい方や団体運営にお悩みの方を対象とした、6回の連続講座。回を重ねるごとに口コミで参加者が増え、「楽しくノウハウが学べた!」「課題が見えてきた!」と大好評でした。



右から、講師の藤井智晴さん（NPOエリア・イノベーション代表）、ゲスト講師の加藤せい子さん（NPO法人吉備野工房ちみち理事長）、石原達也さん（NPO法人岡山NPOセンター事務局長）。若さあふれる3人です。



活動には資金が必要!

「助成金」は、どれだけプログラムの趣旨に合い、効果が出せるかを申請書・プレゼンテーションに示せるかがカギ。「寄付」は、誰か

のチャレンジに共感するから行うもの。「わかりやすさ」や「物語」が必要。石原さんの話に、真剣に聞き入る参加者の皆さん。

団体運営力とは共感力!

まずは、人の共感を呼ぶ活動の原点・創りたい社会についての自身・自団体の強みを確認。

吉備野の魅力を感じてもらおう体験型イベント「みちくさ小道」を展開している加藤さんの、地域を元気に輝かせたいという熱意に、参加の皆さんも元気をもらいました。熱い想いはやっぱり言葉にしなくちゃね。

仲間を増やす!

一緒に何かをしたいという人を見つけることが大切・・・なるほどね。

会員募集にも活動参加呼びかけにも広報は大切! 効果が大きいのは、Facebook と Twitter との藤井さんの説明に、チャレンジを宣言した参加者も・・・がんばって!

想いを伝える広報!

団体の信頼性を高めるにはHP作成が有効。申請書に添付できるし、どんな活動をしているのかわかりやすいという利点あり。マスコミに発信するためのプレスリリースについての勉強もしっかりしました。



今号の表紙

デザイン：たておかくみ
デザイン：立岡玖美さん（専門学校岡山情報ビジネス学院 CGマンガ学科 CGデザインコース）

(作品のコンセプト)

子どもたちが太陽に向かって手を伸ばし、夏らしさ、元気さを表現しました。あたたかみのあるイメージにし、やわらかなタッチで仕上げました。

ウィズライブラリー ～新着図書より～



『できる男は2食主義』

・石蔵文信 著
・メディカルトリビューン
(2009年)

仕事の効率もアップし、家庭円満になる「一石三鳥」の「考え方を変えるダイエット」を試みた医師のダイエット論。



『私たちにたいせつな生物多様性のはなし』

・枝廣淳子 著
・かんき出版
(2011年)

目先の効率を追求し、生物多様性を損なうことは私たちにどういう影響があるのか? 図やイラストを豊富に交えた解説書。



『理系なお姉さんは苦手ですか?』

・内田麻理香 著
・技術評論社
(2011年)

肩ひじ張らず、粹にはまらず生きている「理系女性」の魅力を紹介。将来の進路選択や多様な生き方を考えるヒントにどうぞ。

映画のつどい

参加費無料



毎回好評をいただいている「映画のつどい」。6月の上映作品「みすゞ」は折からのブームでたくさんの方に参加いただきました。

☆次回の映画のご案内

10月27日(木) 13:30～15:40
「ぼくのおばあちゃん」

参加のお申し込みは、ウィズセンターへ
(TEL 086-235-3307)

ウィズセンター・情報コーナーから

図書、DVD等は貸出できます。

図書…………… 1人5冊 2週間まで
ビデオ・DVD…… 1人2本 1週間まで

交流サロンからこんにちは

自由な交流スペース「交流サロン」を例会やミーティングに活用しているグループを紹介します。

◇新老人の会岡山支部◇ ～サークル「グループひととき」～

「新老人の会」は日野原重明会長(聖路加国際病院理事長)のもと、「実りある第三の人生のために」という会の目標に向けてさまざまな活動を全国展開しています。

グループの活動内容は?

日野原会長の活動に共鳴し「何か自分にできること」を考え、過去の経験をこれからの世代の人たちにどう伝えていくか、という想いで交流しています。



「交流サロン」での輪読と会報誌のDM作業

メンバーはどんな方々?

平均年齢70歳!それぞれいろいろな分野の仕事や家庭生活の中で活躍してきたメンバーたちです。「皆さんとても『いきいき』としていて、毎回パワーと元気をもらっています」と、新メンバーさん。

今日はどのような会合?

日野原会長の著書の輪読と、毎月の岡山支部例会をまとめた資料の発送作業です。

「交流サロン」利用の感想は?

第一に、とても落ち着いて過ごせるということ。しかも無料がありがたい!設備も整っており、会合スペースを大変便利に利用しています。



ウィズセンターにひとこと

いつもサロンで賑やかに会わせてもらっています。「いきいき」元気な笑顔のメンバーさん

最後に『新しい友との出遭い』『老いを創めることを体験してみては』と、日野原会長の著書からの言葉を教えていただきました。

やってみよう!

2択式 男女共同参画クイズ

Q1

オランダ人医師シーボルトの娘で日本初の女性産婦人科医となった人の名前は?

- A オランダおいね
B オランダこむぎ



Q2

戦後初めての総選挙で衆議院議員となった女性の数は?

- A 9人
B 39人



クイズの答えは、裏表紙をご覧ください。

インフォメーション

—参加者募集中—

参加費無料

「経済学」で考えると見えてくる ～強い経済と労働市場制度を考える～

- 第1回** 日時 平成23年10月7日(金) 14:00~16:00
 場所 きらめきプラザ 4階会議室 (岡山市北区南方2-13-1)
 講演 「スウェーデンの労働市場政策から日本のフレキシキュリティを考える」
 講師 上岡 美保子さん (前ジェトロ ストックホルム事務所 所長)
 定員 80名

- 第2回** 日時 平成23年11月19日(土) 10:00~12:00
 場所 きらめきプラザ 4階会議室 (岡山市北区南方2-13-1)
 講演 「解雇規制は雇用機会を減らし格差を拡大させる」
 講師 奥平 寛子さん (岡山大学大学院社会文化科学研究科 准教授)
 定員 80名

申込方法
申込先

電話、FAX でお申し込みください。
岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」
 TEL 086-803-3355 FAX 086-803-3344 E-mail:sankaku@city.okayama.jp

男もつらいよ ～「男らしさ」の枷を脱いで自分らしくしなやかに～

- 日時 平成23年10月30日(日) 13:00~15:00
 場所 津山男女共同参画センター「さん・さん」会議室 (津山市新魚町17 アルネ・津山5階)
 講師 吉岡 俊介さん (シニア産業カウンセラー、男性相談カウンセラー)
 定員 50名 (申込み多数の場合は抽選)
 その他 託児あり (無料・要予約・予約締切10月21日(金))

申込方法 申込先

10月21日(金) までに、電話、FAX、ハガキ、Eメールで、①住所 ②氏名 ③電話番号をお知らせください。

津山男女共同参画センター「さん・さん」
 〒708-8520 津山市新魚町17 アルネ・津山5階
 TEL 0868-31-2533 FAX 0868-31-2534
 E-mail:sun-sun@city.tsuyama.okayama.jp



ウィズセンターは**土・日曜日**も開館しています。
 お気軽に、お越しください。

ウィズセンターはこんなところ

- 情報提供** ●図書・ビデオ・DVDの貸出
 ●人材情報・各種団体の活動情報の提供
 ●男女共同参画に関する資料の閲覧
- 各種講座** ●男女共同参画に関する各種講座の開催
- 相談** ●相談員による一般相談
 火～土曜日(祝日を除く) 9:30~17:00 (受付は16:30まで)
 ●特別相談(予約制)
 弁護士による法律相談 原則第2・4金曜日
 医師によるこころの相談 原則第1・3金曜日
 ●相談専用電話 ☎086-235-3310
- 就業支援** ●就業に役立つ講座の実施
 ●就業に関する情報の提供
- 交流** ●各種団体へ活動・交流の場と機会を提供
- 広報** ●情報誌の発行(年4回)
 ●メールマガジンの配信(毎月)

開館時間 火～土曜日 / 9:30~20:00
 日曜日 / 9:30~17:00

休館日 月曜日・祝日・年末年始



ウィズセンターへお越しの際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

ウィズ夏号 (Vol. 57)
 2011年8月発行

編集・発行/岡山県男女共同参画推進センター(ウィズセンター)
 〒700-0807 岡山市北区南方2丁目13-1
 きらめきプラザ(県総合福祉・ボランティア・NPO会館)6階
 TEL(086)235-3307(代) FAX(086)235-3306
 Eメール: danjo@pref.okayama.lg.jp

ホームページ
<http://www.pref.okayama.jp/>
 岡山県トップページ
 ▷組織で探す▷県民生活部▷男女共同参画推進センター(ウィズセンター)

講座等のお申し込み、お問い合わせ、ご意見は、ウィズセンターへ

※P6クイズの答え: Q1...A、Q2...B



古紙配合率100%再生紙を使用しています